

イスラエルが戦争に負けた証拠はこれだ

マイク・ウィトニー

The Unz Review 2025 年 6 月 28 日

<https://www.unz.com/mwhitney/heres-proof-that-israel-lost-the-war/>

イスラエルがなぜイランとの停戦に合意したのか、アメリカ国民は知らされていない。たしかにイスラエルは防空迎撃ミサイルを急速に使い果たしていた（イランの攻撃に対してより脆弱になっていた）。しかし、その問題は二の次にすぎない。

彼らが停戦を望んだ本当の理由は、イスラエル軍が組織的に粉砕され、早く出血を止める必要があったからだ。イランが次々と標的を壊滅させ、終わりが見えなかったからだ。だからイスラエルは降伏したのだ。

（イランの弾道ミサイルによる）イスラエルの戦略目標の甚大な破壊について、西側メディアはまったく触れていない。そのニュースは主要な報道から完全に省かれている。

しかし、だからこそイスラエルはトランプに外交的な出口を見つけるよう説得したのだ。損失が加速的に膨らみ始め、イランが「手を緩めない」からだ。

イスラエルでイランのミサイルに攻撃された建物のビデオや写真を投稿することが違法であることをご存知だろうか。つまり、くすぶる建物やインフラ、軍事基地の写真を公開すれば、刑務所に行くことになるのだ。



12日戦争におけるイランの攻撃目標(左クリックで拡大)

こうして政府は物語をコントロールし、実際には負けている戦争に勝っていると国民に信じ込ませているのだ。しかし、私の言葉を鵲呑みにせよとはいっていない。

イスラエルのニュースキャスターが、政府の検閲がいかに民衆の状況を把握する能力に影響を及ぼしているかを説明しているビデオクリップがある。

<https://twitter.com/SuppressedNws/status/1938336639748624420>

引用

13 チャンネルのラヴィヴ・ドラッカーです。我々の側のミサイル攻撃の報道の仕方には、どこかイラン的な側面があると言わざるを得ません。ワイツマン研究所のことを言っているのではなく、IDF（イスラエル国防軍）の基地や戦略的拠点に多くのミサイルが着弾しており、今でもそれについて報道されていない事例が多数あります。そして、それを報道しないことには誰もが理解している明確な理由があります。ですが、その明確な理由の裏で、人々はイラン側の攻撃の精度や、各地でどれほどの被害があったかを正しく認識できない状況になってしまっています。私たちが知っているのはワイツマン研究所のことだけで、それ以外にも知られていない場所が多くあるのです。

引用終り

引用内の重要な部分を繰り返す。イラン人がどれほど正確で、多くの場所にどれほどの被害をもたらしたか、政府と軍は人々に気づかせないように情報の真空状況を作り出したのだ。

この発言から何が読み取れるだろうか。イランの新世代の弾道ミサイルは、豊富で、正確で、致命的だということだ。

彼の名誉のために言うておくが、このニュースキャスターは、一般の人々が自分たちの安全に関して十分な情報を得た上で決断できるように、このような最新兵器について知らされるべきだと考えているようだ。

我々はこの意見に同意するが、検閲が厳しく、国家統制が敷かれ、アジェンダ主導のメディアが情報発信の方法を変えようとしないことも知っている。結局のところ、メディアの目的は情報を伝えることではなく、世論を形成することなのだから。

話が逸れてしまったようだ。私たちが示したいのは、イスラエルが停戦に同意したのは戦略的目的を達成したからではなく、打ちのめされて一刻も早く出血を止めたかったからだ、ということだ。

イスラエル全土を大混乱に陥れた精密誘導弾道ミサイルによって攻撃された、軍事、情報、産業、エネルギー、研究開発の主要施設のショートリストに基づき、私たちはそう判断している。

覚えておいてほしいのは、（イランによる反撃の）「真の約束 III」作戦は、22 発以上の最新鋭弾道ミサイル（多くは初めて使用された）を放ち、「世界で最も難攻不落の軍事拠点」といわれたイスラエルの厳重な要塞の数々に、嵐のような打撃 *withering blows* を与えたことである。

イランのミサイルは、イスラエルの防御をことごとく打ち破り、標的をねじれた金属や壊れたコンクリートの塊にした。（ある兵器専門家は、イランの弾道ミサイルのうち迎撃されたのはわずか 5% だったと見積もっている）

以下はプレス TV の記事からの引用である：

引用

イランは、テルアビブ中心部にあるいわゆる「イスラエルのペンタゴン」、キリヤ軍事情報複合施設を破壊した。X に掲載された数少ない写真では、かつてのペンタゴンはくすぶる巨体となっている。

この複合施設は、「真の約束 III」の最初の段階で、イランのミサイル弾幕を撃退することはできなかった。占領地で最も厳重に要塞化された場所のひとつであり、イスラエルとアメリカの防衛システムによる多層的なシールドで守られていたにもかかわらず...

ハイファでは、イランの精密誘導ミサイルが、イスラエル内務省の軍事動員の担当部局が入る高層ビルを直撃した。この攻撃は、自治体レベルの物流ネットワークと緊急対応システムを混乱させた。

引用終わり

イランのミサイルは、アマン軍事情報本部も撃ち抜いた。それはヘルズリヤ近郊のグリロット・ミズラ・インターチェンジにある情報コンプレックスである。アマンは、8200 部隊（信号情報）、504 部隊（人的情報）、9900 部隊（地理空間情報）などのエリート・スパイ部隊を統括している。この施設には、イスラエル政権の悪名高い対外諜報機関であるモサドの作戦本部もある。

イランはまた、ネゲブ砂漠にある『難攻不落の』ネバティム空軍基地を 30 発以上の弾道ミサイルで攻撃し、深刻な打撃を与えた。（もちろん報道されていない）。ネバティム基地にはイスラエルの F-15 と F-35 のほとんどが配備されているが、これらの戦闘機のうち何機が破壊されたかは推定されていない。他の空軍基地も攻撃された。テルアビブ近郊のテル・ノフとベン・グリオン基地、ハイファ近郊のラマット・ダヴィッド基地、地中海沿岸のパルマチム、エilat 近郊のオヴダ基地などが標的となった。

イランのミサイルは、今回初めて使用されたものも含め、テルアビブとハイファのイスラエル軍とモサドの指揮統制センターを主要な標的にした。

以上はプレス TV から聞き取った情報である。

6 月 16 日、イランの弾道ミサイルがハイファのバザン製油所を攻撃した。バザン製油所はガソリンの約 60%、軽油の 65%、灯油の 50% 以上を供給している。このミサイル攻撃は大きな被害をもたらし、製油所とその子会社は全面的な操業停止を余儀なくされた。

イスラエルのエネルギー相は後に、この施設に大規模な修復工事が必要であることを認め、部分的な再開であっても早くて 1 ヶ月を要すると見積もった。また、近隣の発電所も被害を受け、占領地中部で広範囲に停電が発生した。

6 月 23 日の攻撃では、イランのミサイルがアシュドッドの発電所付近を直撃し、強力な爆発と局地的な停電を引き起こした。イスラエル最大の発電所であるオロット・ラビンがあるハデラ近郊でも爆発と停電が報告された。

この日、さらにイランは、最近のイスラエルの侵略に関与した軍需産業拠点を直接標的にした。その最たるものが、ハイファの北にあるラファエル・アドバンスト・ディフェンス・システムズの複合施設で、ここにはイスラエルの軍事機器の重要な部品を製造する複数の工場や研究開発施設がある。

ラファエル社はイスラエル軍に供与されるミサイル迎撃ミサイル「アイアンドーム」と「デイビッツ・スリング」を製造している。また、スパイス・キットやボパイ、ロックス、スパイク、マタドールなどの対イラン攻撃に使用される巡航ミサイルや誘導ミサイルも製造している。

これまでもパレスチナやイランのミサイルを阻止するのに何度も失敗してきた。同日、キリヤット・ガット工業地帯も攻撃された。ここはマイクロプロセッサとハイテク軍事生産の主要拠点である。イランの攻撃は、イスラエルの無人機と監視プログラムに不可欠な主要生産ラインを損傷させたと伝えられている。

さらに南、ベエルシェバ近郊のガブヤム・ネゲブ先端技術パークには、サイバー戦争、AI、軍事技術に携わる企業が集まっている。これらの企業の多くは、イスラエル軍やモサドと密接に協力している。

テルアビブの南、レホボトにあるワイツマン科学研究所も標的となった。軍事研究開発とイスラエル軍事機関との提携で知られるこの研究所は、主要な研究所に壊滅的な被害を受けた。研究所のメンバーや教授たちは、数年分の研究が失われたことを確認した。

ワイツマン研究所はまた、イスラエルの秘密核開発計画の一翼を担っており、ディモナの核科学者の多くが同研究所を卒業、あるいは同研究所で教鞭をとっている。

ここまでプレス TV の報道をまとめたもの

さて、まとめてみよう。わずか1週間あまりの間に大変なことが起こった。

イランの攻撃を箇条書きにしてみる。

1. 「イスラエルのペンタゴン」、キリヤ軍事・情報複合施設

- 2.イスラエルの秘密核開発計画の一翼を担うワイツマン科学研究所
- 3.ヘルズリヤ近郊のグリロット・ミズラ・インターチェンジにあるアマン軍事情報本部。アマンは、8200 部隊（信号諜報）、504 部隊（人的諜報）、9900 部隊（地理空間諜報）などの精鋭スパイ部隊を統括している。
- 4.イスラエル内務省の内部軍事調整を担当する部局。
- 5.モサドの作戦本部
- 6.イスラエルで最も警備が厳重なネヴァティム空軍基地（およびテルノフ空軍基地）
- 7.ベングリオン空港（繰り返し）、エイラート近郊のラマット・ダヴィッド、パルマチム、オヴダ
- 8.テルアビブとハイファにあるイスラエル軍とモサドの指揮統制センター……。
- 9.ハイファのバザン製油所-イスラエル最大の燃料加工センター
- 10.アシュドッドの巨大発電所-強力な爆発と局地的停電を引き起こした。
- 11.ハイファの北にあるラファエル・アドバンスト・ディフェンス・システムズ複合施設-イスラエルの軍用ハードウェアの重要な要素を生産する複数の工場と研究開発ビルがある。
- 12.キリヤット・ガット工業地帯-マイクロプロセッサーとハイテク軍事生産の中心地
- 13.ベエルシェバ近郊のガブ・ヤム・ネゲブ先端技術パーク。サイバー戦争、AI、軍事技術に携わる企業が入居している。



Tel Aviv at dusk

おわかりだろうか。わずか 10 日間（6 月 13 日から 6 月 23 日まで）で、イラン軍はイスラエル全土にある最も名高い軍事、情報、産業、エネルギー、研究開発施設のかなりの部分を丹念に破壊した。（西側メディアはこのような報道をしてくれませんか？）。戦争があと 1、2 週間続いていたら、ユダヤ教の聖地は人間の居住に適さないくすぶった第三世界の荒地になっていただろう。

要するに、これは通常の停戦ではなかった。これは、「自分の体重以上の超重量級パンチ」を受けていることに気づいた、劣勢に立たされた側のとっさの判断による絶望的な屈服だったのだ。

トランプはこう総括した：

以下引用

トランプは水曜日にハーグで開催された NATO 首脳会議で記者団に語った。「イスラエルは大打撃を受けた。弾道ミサイルは多くの建物を破壊した」と。

<https://twitter.com/i/status/1937812706599252198>

引用終わり

イスラエルはもろに必殺パンチを受けたのだ。

イランとイスラエルの間には正式な合意はない。署名された文書も、明確な約束もない。停戦は、主にカタールが仲介した裏ルート外交によって進められた。

ホワイトハウスの高官と担当外交官は、裏会談について次のように説明をおこなった。

- * イスラエルは、イランが攻撃を停止すれば攻撃を停止することに合意する、
- * イランはカタールの“顔を立てる”ために、この条件に従うことを示唆した (compliance with these terms through Qatari mediation)。

この力関係を無視したあやふやな「合意」を、トランプは「完全かつ全面的な停戦」と発表し、24 時間かけて段階的に実施するとしているが、6 月 23 日の当初の取り決め以来、双方による違反は数多くあった。要するに存在しないに等しい合意だ。

イランのアラグチ外相は当初、「合意はない」と述べていたが、のちに「イスラエルが交渉を履行すれば、イランは軍事対応の停止を考えないでもない」と“余裕で”示唆した。

もちろん問題は、イスラエルとアメリカが停戦を、次の敵対行為に備えて再編成するための時間稼ぎに過ぎないと考えているため、停戦が維持されないことだ。それはウクライナ戦争におけるミンスク合意と同じだ。

イスラエル国防相イスラエル・カッツは6月28日に次のように述べた：

引用

速報：イスラエル・カッツ国防相は、イスラエルはイランとの停戦を尊重するつもりはないと発言。

「私はイスラエル国防軍に対し、以下を含む対イラン強行戦略を準備するよう指示した。

* イスラエルの航空優勢を維持する。
* イランの核・ミサイル開発計画の進展を阻止する。
* イスラエルに対するテロ活動に対するイランの支援に対応する。
イランの脅威に対抗するため、私たちは一貫して行動する。
テヘランの歯抜け蛇頭（toothless snakehead）に用心するよう忠告する。
「ライオンの強さで」作戦は、新しいイスラエル政策の予告編にすぎなかった。
これからが本番だ。もう手加減はしない。

引用終わり



Israeli Defense Minister Israel Katz

これは、『恒久的な平和』や戦闘の一時的な終結を望んでいる人物には見えな
い。戦闘再開の戦略をすでに決めていて、計画を実行に移すため BiBi（ネタニ
ヤフ首相）からゴーサインを待っているだけの人物のように見える。

しかし結局のところ、どのような戦略が残されているというのか。イスラエル
はすでに最高級の軍事兵器と高度な防空システムを実戦に配備し使用してい
る。それに加えて、これまでと違う結果をもたらすために、他にどんな手段が

あるのだろうか？ たった 12 日間の紛争で経験したのとは別の戦いがあるというのか。

イスラエル参謀本部には 2 つの選択肢しかない。地上軍の投入を含めて、米国を紛争にもっと深く引き込むか、『核武装』するかしかない。第 3 の選択肢はない。

つまり、BiBi と彼の将軍たちが『袖の下』に隠し持っているものが何であれ、それは前回の小競り合いで見たのとは違う破壊力と規模になるのだ。

『タイムズ・オブ・イスラエル』紙の 6 月 26 日版に掲載された、不可解な記事をご覧ください。

引用

今週初めのアメリカのイラン攻撃後、ベンヤミン・ネタニヤフ首相とドナルド・トランプ米大統領は、ガザでの戦争の早期終結とアブラハム合意の拡大で合意した」と、『Israel Hayom』が「側近筋」を引用して報じている。

同紙によると、トランプ大統領とネタニヤフ首相は電話会談で、ガザでの戦争を 2 週間以内に終結させることで合意したという。アラブ首長国連邦（UAE）とエジプトを含むアラブ 4 カ国が、ハマスの代わりにガザ地区を共同で統治する。テログループの指導者は追放され、すべての人質が解放される。

アラブの同盟国は、次のように繰り返し主張している。イスラエルがパレスチナ自治政府に同意しない限り、戦後のガザ復興には参加しない、と。しかし、ネタニヤフ首相は、パレスチナ自治政府がガザ地区でいかなる役割を果たすことも断固拒否している。

トランプ大統領とネタニヤフ首相は、マルコ・ルビオ米務長官とロン・ダーマー・イスラエル戦略相を加え、月曜日の夜遅くに「高揚した」電話会談を行ったと Israel Hayom 紙は伝えている。

サウジアラビアとシリアはイスラエルと外交関係を結び、他のアラブ諸国やイスラム諸国もそれに続くだろう……。イスラエル側は、パレスチナ自治政府の改革を条件に、将来の2国家間解決への支持を表明する。一方、両首脳は、ワシントンがヨルダン川西岸の一部におけるイスラエルの主権を認めることで合意した。

タイムズ・オブ・イスラエルより

引用終わり

中東情勢に詳しい人なら、この記事に書かれていることがすべて嘘っぱちで、何一つ真実ではないことを知っている。

ガザでの戦争が急速に終結することはないだろうし、アブラハム合意が急速に拡大することもないだろうし、イスラエルが2国家解決策を支持することもないだろう。

では、まともな人なら誰も信じないような無意味なプロパガンダに何の意味があるのだろうか？

Israeli Strikes Kill Civilians Across Iran

Israel has said it does not target Iranian civilians, but hundreds have died in the violence, among them a poet and her family, an equestrian and a graphic designer.

NY Times：イスラエルは市民は爆撃対象にしないという。しかしその暴虐のもとで数百が死んだ。

仮定の話でこの疑問に答えよう。例えば、9.11のような予期せぬ大惨事が今後数週間のうちに起こり、それにはイランの指紋が至るところに付着していたとしよう。

そしてこの偽旗は、議会や MSM の「いつもの容疑者たち」がトランプ大統領に即座に行動を起こし、イランを爆撃するよう要求するほど破壊的だったとしよう。

もしそのようなシナリオが展開されたなら、ビビとトランプにとっては、絶望的な状況だ。イスラエル全土が残骸の山となるか、自殺的な核使用で不毛の核砂漠となるか。それならガザ危機を解決するための、最近行われているちょっとした努力を大げさに宣伝するほうがいいのではないだろうか？

彼らは積極的に和平を追求してきたが、イランの行動によって思いがけず頓挫してしまったという「世論の誤解」のほうが、都合が良くなるのではないか？

確かにそうだろう。

もちろん、これはすべて推測にすぎない。何が起こるかはわからない。

しかし、カッツ国家安全保障相、イタマール・ベングヴィール国家安全保障相、ベザレル・スモトリッチ財務相のような強硬派をはじめ、ネタニヤフ首相の狂気の政権には数え切れないほどの人々がいる。

彼らは、イランが軍事力を回復しないように、イスラエルは「剣を振り上げ続けなければならない」と考えている（スモトリッチ）

イスラエルの指導者の多くが、ネタニヤフ首相は「とどめを刺す」べきだと繰り返し述べている。

賢明な人なら、最悪の事態に備えるだろう。私たちは賢明であり続けるために下記のごとく自問しなければならない。

そのような事態が起こる可能性はあるのか。何百万人もの女性や子どもたちの殺害と強制的な飢餓を引き起こし、それを正当化する政府、そういう政府が、世界で最も殺傷力の高い兵器の使用になら反対するだろうか。それだけの道徳的呵責が残っているのだろうか？

いま私たちは、みな、ネタニヤフ首相が私たちの予想通りのことをするのではないかと、大いに心配しなければならない。

（了）

【翻訳チェック 鈴木頌】